

有識者が語る鳥羽の地域共生

前回のシリーズ④では鳥羽で活躍している団体についてお伝えしました。
今回は講演会「しあわせのセブントーク」を紹介します。

健康福祉課生活支援係 ☎ ②⑤ 1181



「しあわせのセブントーク」の様子



鳥羽市では、7回シリーズの講演会「しあわせのセブントーク」を実施しています。より多くのかたに地域共生社会を知ってもらうため、さまざまな分野から講師を招き、鳥羽市の地域共生社会について語っていただくものです。また、皇學館大学の板井正斉准教授と講師との対談も開催し、より理解を深めることができる内容となっています。

今回は、これまでの講演会について内容を紹介するとともに、今後開催の講演会について案内します。

第2回 挑戦人口を増やす

DMM.com 執行役員（経営企画室長／ビジネスプランニング本部長）

市村 昭宏 氏

人と人がふれあう機会を一つでも多く作ることが重要で、「しごと」をすると自ずと人との触れ合いが増えていきます。

「本気の失敗を肯定する」「若者に協力する」「たくさんファンをつくる」ことにより、挑戦者人口を増やすことが、鳥羽市の強みとなっていきます。ただ、「挑戦」は、必ずしも新しいことばかりではなく、今あるものをアップデート（更新）し、チューニング（目的に合うよう調整）することで大きく変わっていきます。



第1回 「楽しい！」ことから始めてほしい

厚生労働省大臣官房総務課広報室長

野崎 伸一 氏

地域でのさまざまなつながりが重なって、誰もとりこぼされない社会を「地域共生社会」といいます。新しい取り組みを促すのではなく、今ある取り組みの継続を促進していくことが重要です。一人一人が地域活動に少しずつ参加し、少しの役割ができることが大切です。まずは「楽しい！」と思うことから始めることが第一歩になります。



第3回 インナープロモーションが重要

㈱アド近鉄 ソリューション本部
および経営管理本部 副本部長

難波 潤史 氏

2040年に人口がほぼ1万人になると予想される鳥羽市において、市民全体を巻き込んでいく取り組みが不可欠です。市民向けのインナープロモーションとして、6つのヒントを提案します。

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ①動きたい気持ちは何か | ④共感できる思い出に訴える |
| ②シンプル・イズ・ベスト | ⑤課題から逃げない |
| ③人が動くのは「めっちゃめっちゃ楽しい時か、困った時」 | ⑥逆転の発想 |



しあわせのセブントーク
7 TALKS
Seven Talks of Happiness



講演会「しあわせのセブントーク」 今後の予定について

第6回「海は“みんな”のもの —海女文化から学ぶこと—

東京海洋大学 准教授
小暮 修三 氏



と き 2月22日(土)
午後1時30分～3時

ところ 鳥羽商工会議所3階・かもめホール
内容 海・人・地域の関わりについて、
海女の生活文化や継承保存活動を通して
学び、地域“みんな”の“しあわせ”に
ついて考えます。

第7回「鳥羽のまちは元気 にあふれています!!」

鳥羽市生活支援
コーディネーター
杉浦 徹 氏



と き 3月6日(金)
午後6時30分～8時

ところ 未定

内容 鳥羽のまちで輝く大小さまざまな
取り組みを紹介します。鳥羽のまちを
歩き、ふれあいを通じて発見した“鳥羽
独自の元気ですてきな”地域資源をみな
さんと一緒に共有していきます。

申込・問合せ 健康福祉課生活支援係
(☎25)1181)

第4回

常識にとらわれず大胆につながる

同志社大学社会学部 教授

永田 祐 氏



これからは福祉だけの発想ではなく、「〇〇」×「福祉」の発想が重要です。「〇〇」は「まち」にあるさまざまな人や資源で、常識にとらわれずに越境することや、できることを柔軟に出し合いながら、全ての人が役割を持って活躍できるような地域社会を作ることが必要となってきます。

互いに「のりしろ」を出し合い、福祉でまちづくりを進めていくことが地域共生社会に近づく一つと言えます。

第5回

労働市場はシニア層に期待している

株式会社リクルートジョブズ ジョブズリサーチセンター
センター長

宇佐川 邦子 氏



人口減少・高齢化が進む中、企業の危機感、収益より人材確保が上位になり、日本の労働市場は、特にシニア層に大きな期待をかけています。

鳥羽市は人口減少・高齢社会の先進地でありながら、観光地でもあり、人口を増やさずとも「にぎわい」を作り出す強みを持っていると言えます。生産年齢を引き上げて、観光産業を支える仕組みを作ることができれば、新しいモデルケースになるのではと期待しています。

シニア層は、過去の自分と比べて「もう年だから」と悲観しがちですが、十分な能力を有している場合が多いので、健康寿命の延伸、生きがいのためにも、無理しない程度に働き続けることをおすすめします。

今月より、隔月でトバゴトの福祉に関わるコト「トバゴト」をコラムで紹介することになりました。普段は「当たり前」で見過している鳥羽のすてきなヒト・モノ・コトが「実は、こんなにもすてきなことだったんだ」と再発見してもらえ、そのような機会になればいいなと思っています。

そこで今回は、まちの中にある「集いの場」についてのお話をします。集いの場といえば、鳥羽のなかでも、各地域にある町内会の集まり、高齢者サロン、趣味や運動グループなど、さまざまな集いの場があると思います。

最近の研究では、高齢者がこれらの集いの場へ参加することで、多くの介護予防効果が得られると言われています。例えば、趣味の会へ参加している高齢者は「うつ病になりにくい」とされ、スポーツなどの運動グループへ参加している高齢者は「転倒しにくい」と報告されています。



高齢者サロンでの活動



集いの場での運動

また、町内会や地域のボランティア（集い）へ参加することとも「要介護認定」となる確率を下げる効果を持つと言われています。

このように、鳥羽での暮らしのなかで「当たり前」のように存在している町内会、趣味や運動の会が、実はものすごい効果を持っていたというコトです。ただ、人口が減少していくなかで、どの地域でもこれらの「集い」を存続させていくことは、簡単なことではありません。だからこそ、もう一度、集いの場がもつ意味や役割を再確認し、地域のタカラモノとして、地域をあげて守ってほしいなと思います。

とばと
活躍
プロジェクト

トバゴト

健康福祉課長寿介護係

(生活支援コーディネーター 杉浦徹)

☎ (25) 1186



トバゴトQRコード